

# 大豆の有機栽培に取り組んでいる事例①（有限会社 瑞宝）

## 所在地



## 経営規模 (R7年産)

大豆（有機JAS）：78ha  
にんにく（"）：2ha  
水稻（"）：50ha  
小麦（"）：1ha  
その他（ぶどう、長芋等）  
（有機JAS）：0.6ha  
合計（有機JAS）：131.6ha



## 有機農業の様子（6/12播種・7/11撮影）



## 有機農業に取り組んだきっかけ

- 当法人の創業者は、就農後、農薬が体に合わなかったため、昭和37年に農薬を使わない米作りを始めた。現在は、農薬・化学肥料、動物性資材を一切使わない「自然農法」を行っている。

## 取組状況

- 有機大豆の課題は雑草対策だが、大豆単作での除草は難しいので、輪作体系（水稻→小麦→大豆）を組んでいる。
- 雑草対策として中耕培土を行っているが、その効率や精度の向上が課題。播種作業から自動操舵トラクタで行うことにより、畝間が揃い、中耕培土も高スピードでの作業かつ大豆を傷めるリスクも減らすことができるため、従来2回の中耕培土を試験的に4回行っている。
- 抑草のために、狭畦栽培（畝間34cm）にも取り組んでいる。播種量は通常約1.5倍で9kg/10a。
- 肥料は、自社の堆肥センターで、米ぬか、屑大豆を堆肥化させたものを使用。
- 経営面積の拡大に伴い、作業体系の改善が必要となり、スマート農業技術（自動操舵トラクタ、KSASによるデータ管理）も導入。
- 昨年（R6）の単収は180kg/10a（坪刈りでは300kg/10aだが、培土（畦）の高さによる刈取ロスがあると思われる）。

## 今後の取組方針

- 今後も引き続き、有機農法の取組拡大・普及を図りたい。